

21世紀-----美しい日本がだんだんと姿を変えてきている。
便利さばかりに利潤を求めて地球を限りなく傷つけて多くの緑や資源が失われていく。
昆虫や動物が絶滅の危機にさらされているNEWSがよく耳に入ってくる。高度成長するにつれて地球上にCO2が多量に吐き出されてオゾン破壊が年々大きくなり、世界中で異常災害が多発している。
地球が悲鳴をあげて忠告しているにも関わらず他人事のように振る舞っている。
今年はエルニーニョに始まりラニーニャ現象が訪れる年だ。猛暑が続きましたどこかで渇水になり水不足現象が起きる事だろう。

今日の社会はデジタル化が急速化して知らず知らずの内に国やディーラーが、それとなくルールを敷き詰めて国民はそれに気づかずにその上に乗せられて走らされているのではなからうか・・・そんな気がするのは私だけであろうか。全てにものが合理化に進み歩くことでさえも少なくなってしまった昨今。たかが歩くことも健康の一環と大げさに唄われている。アウトドアキャンプでさえもオートキャンプ場で合理的なものが大流行で予約が必要だと聞く。現地まで車移動して車の真横でテントを張り、電源や水道までも用意されていて家庭用電化製品を持ち込んでいると言う。まるでどこかの国の難民キャンプさながらな気がする。

2007 MAY

今年は雪少なしと言われていたが、それは兵庫のような2000m以下の山だけで、それ以上の山々は例年並みに積雪があったようで色々な情報が飛び込んでくる。しかし全くとっていいほどに今年は地元の山々で雪山トレーニングを積めていないので今シーズンのGWは、前半に白山のチブリ尾根からの雪山登山で締めくくった。締めくくりにしては、起伏の激しい天候に見舞われてしまった。初日は、晴れ/曇り/雷/吹雪/晴れと、とんでもない巡るましい天気の変り変わり右往左往であった。おまけに雷が仲間の数メートル横のシラビソに直撃する参事で手に汗握るドラマであった。その夜は満天の星に抱かれ、次の日は15cmの降雪でこの時期の白山や別山の山頂付近は雪解けが進み黒くなっているのが普通であるが、その全容は真っ白く厳冬期を思わせるようで、朝日を浴びてモルゲンロートに輝いていたのが印象的である。
後半は淡路の山でトライアルバイクキャンプを楽しんでいた。



冠雪の白山



御斜里への急登



トライアルバイクキャンプ

5月も中旬を過ぎてくるとブナ林の新緑の下では山菜が芽吹き始める季節である。

天候の良い週末をねらって、沢登り装備に身を固めて、扇ノ山1309.9mのふところの上地川本谷へ山頂小屋泊で出かけた。

昨日の大雨で増水して濁っているかと思っていたが、さすがはブナの宝庫の扇ノ山、一日ぐらいの大雨では顔を洗ったほどである。山々の新緑が一段と光り輝きを増して春の色とりどりの草花が一斉に花開き、手招きをしているかのようだ。

入渓地点で早速にクレソンの群生を発見。今夜の天ぷらにと摘ましてもらおう。シーズン始めでもあり山頂小屋泊なのでザックの重みも増して足元の見えない岩を慎重に遡行して行く。沢登りともなるとまだまだ人口も少なく殆どの沢は自然がそのままに取り残されていて、人口物など何一つとして見あたらない大自然そのままである。大きなホウの葉の間から木漏れ日が差し込み、岩に当



遡行開始



入渓地点・・・苔に咲く花

たっては飛び散る水滴をキラキラと輝かせている。まるで森全体が朝日に照らし出されて目覚めているかのようである。我々もフィトンチッドとマイナスイオンがたっぷりと染み込み心も体も洗礼されていく。

小さな滝はシャワーを浴びながら直登し、大きな滝は草木を掴みながら高巻きして高度を稼いで遡行していく。木々もホウ、トチ、サワグルミ、ミズナラ、ブナと高度を上げるに連れて変化していく。山菜もミズ、ギボシ、ウド、コシアブラを摘んでいく。

入渓地点では多量に流れていた沢水も登り詰めて行くと最初の一滴に近づいてくる。ここで今晚の水を10Lほど汲んでおく。ブナの腐葉土にたっぷりと染み込み山肌から湧き出てくる天然ミネラルを含んだ極上の水である。

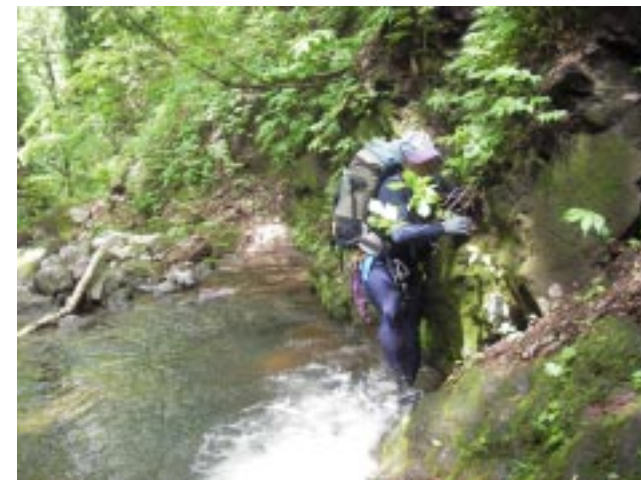
山小屋にたどり着くと装備を降ろし、今晚のメインであるスズコを狩りに背丈ほどのチシマ笹の



大自然との調和が始まる



ホウやミズナラが生い茂る



淵をへつる

群生の中へと入って行く。そこそこに収穫して焼きタケノコにして味噌をつけていただく。全くに渋みもなくアツアツはビールのつまみに最高だ。ほどほどに食べ終わると春の陽気に連れられてチシマ笹の葉がそよ風に踊らされ、ウグイスの奏でる歌声とコラボレーションして、時間がゆったりと流れている。いつしか横になり夢心地に寝入ってしまうZZZZZZZZzzzzzzzzz,,,,,,,,,。

晩際は山菜の天ぷらなので、スズコを湯がいて皮をむいたり、コシアブラの筋を除いたり、下ごしらえが出来上がると、次々に揚げてはビールと交互に口に入れる。今日はこのために鍋や油を担ぎ上げてきたので味のほうも格別に美味しい。

それにしても今日は黄砂が激しくて視界が悪い。すぐ近くに見える氷ノ山もぼんやりとしている。このおかげでチシマ笹やブナの葉もあまり元気がなく、まるで泣いているかのようである。夜もやはり黄砂のおかげでくっきりと星も見えなかった。



小滝は直登



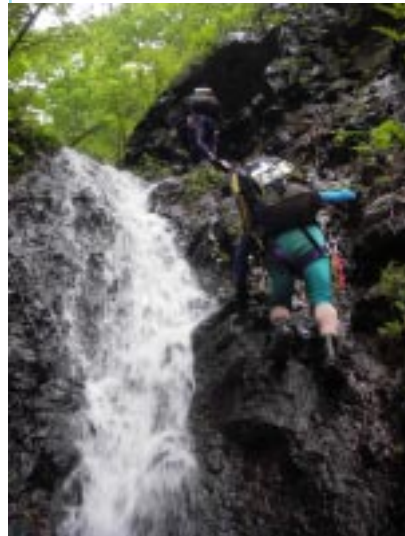
シャワーを浴びて

東西南北ともガラス張りの美しい小屋なので明るくなるもの早く早々に目覚める。ゆっくりと朝食をとっても7時半には下山準備完了だ。下山ルートは大ズッコ手前から上地へ降りるルートである。ブナの灌木帯の稜線上の急な登山道はまさに「ブナの実コロコロ」と名付けてもいいくらいの急坂が続いている。4年前にこの坂をスキーで滑降したのを思い出す。

途中で山吹を摘みばみ、沢を徒渉すると入渓地点へ降りてくる。そこで再びクレソンを土産に摘む。

時間もまだ9時と早いので多少大回りをして河合谷牧場を後にして雨滝へと向かう。日本の百滝に選ばれるだあって流れ落ちる水は枯れることなく怒濤のごとく沸きだしている。厳冬期は氷爆するのであろうか、一度その時期に来てみたいものである。途中、雨滝の湧き水使用で作った手作り豆腐店で舌打ちして、あまりにも美味しいので土産にした。

今年は猛暑予報なので、この扇ノ山山域の沢でキャンプしながらマイナスイオンをたっぷり浴びて遊行したいものである。



ギボシ群生



ミズ



焼きタケノコ



山菜の天ぷら



ブナの実コロコロ



雨滝